

学生ボランティア活動の広がりをめざして

～「通学圏域」「生活圏域」をふまえた活動支援の可能性～

「学内にボランティアセンターを設置する」「ボランティア・NPOに関する科目を開設する」など、学生ボランティアの支援に取り組む学校が、少しずつ増えてきました。

今回は、「学生のボランティア活動支援－活動環境の整備」等の把握のため、県内の大学・短大・専門学校に対して行ったボランティアに関する取り組み調査の結果をもとに、学生へのボランティア活動支援をめぐる現状と課題についてとりあげます。

主な取り組みは「情報提供」

ボランティアに関わる学校の取り組みについて、約八割の学校が、ボランティア情報の提供を行っている」と回答しています。その方法は「学内の掲示板」が大多数を占め、次に「学内サークルを通じて」となっており、その他には、チラシを学内に置く、学生生活課の前に専用ファイルを置いて自由に閲覧できるようにしている、必要に応じて学生に対し直接声をかける、ホームルームやクラス担任を通して伝えるなどがあげられています。

学校へのボランティア情報は、ダイレクトメールなどで直接寄せられることも少なくないのですが、情報収集先の約七割は、近隣の社協（ボランティアセンター）からとなっています。

しかし、情報提供が積極的に推進される一方、「学生にとって安全な活動なのか」など、募集内容についての「判断」（評価）が学校だけでは十分にできないため、学校側として情報提供が積極的に行えないといった課題も少なからず抱えているようです。

学問とボランティア活動・学びの接点

（図1）「科目」開設にあたっての「ボランティア活動の意義」

①学生の間人としての成長のため

- ・学生が自分の可能性に気づくこと、自主性および自発性を育て高める
- ・人を尊び、命を尊び、個を敬愛する精神を培う

②教育的効果をねらって

- ・社会福祉、教育、保育分野の学生にとって、ボランティア活動を通じて実践を積むことは意義深い
- ・工科系技術者を育成するにあたり、福祉施設等での活動の中で不便なこと、改善すべきことを体感することは有意義である（ユニバーサルデザインの視点を養う）

③各学校の建学の理念に基づく

- ・理念「For others；他者のために、他者と共に」に基づいて、実体験により体得できるものとして、ボランティア活動を推進している
- ・校訓「人になれ 奉仕せよ」にあるように、ボランティア活動を通して、「建学の精神」に触れ、建学の精神の内実化・活性化に供するものとなるよう願っている

「ボランティア・NPOに関する科目」の開設数については、大学十六校（回答校の四三・二％）、短大三校（同五・八％）、専門学校十六校（同二・八・六％）となつています。学校が「科目」開設にあたって、ボランティア活動をどのように捉えているのかを整理すると大きく三つに分けられます。（図1）

かながわの先行事例―「気づき」の大切さを伝える

学内ボランティアセンター（図2）の設置・運営のタイプとしては、①学生主導型、②学校主導型、③学生と学校の協働型、④学校と地域の協働によるコミュニティ型の四つに分けられます（※④は県内に該当校なし）。

「学生主導型」の例として、関東学院大学の学生ボランティアセンターでは、学生自身が「ボランティア活動のきっかけづくり」のための様々な取り組みを行っています。特徴としては、学生自らが社協ボランティアセンターなどに足を運んで情報収集をおこない、内容の把握に努めたり、学内のボランティア相談で抱えている課題を社協のボランティアコーディネーターに相談し、その解決に努めています。またキャンパス内に大